38　『十五指南篇』診切指南篇所載の脈法記載について

中川　俊之
日本鍼灸研究会

国立国会図書館所蔵の『十五指南篇』3 巻（請求番号 WA7-50）は，初代曲直瀬道三が著した漢文体の医書である．慶長年間の古活字版であるが，序跋や刊記は無く，全巻にわたり欄外や行間に墨や朱の書き入れと訓点の附加が見られる．『国書総目録』では書名を『医学指南篇』とし，別名に『医学十五指南』『十五指南』『医工指南』をあげている．宮内庁書陵部に道三自筆の元亀 2（1571）年写本（函架番号 558・65）が所蔵されるほか，整版に寛永 8（1631）年刊本と承応 2（1653）年刊本があり，後者は『近世漢方医学書集成』（大塚敬節・矢数道明ら編，名著出版，1979 年）に影印されている．曲直瀬玄朔の著作と誤認される場合があるので注意を要する．

本書は医学，医法，診切，立方，用薬（2 篇），弁剤，弁治，治療，治例，治法，脾胃，戒慎，療養，摂養の 15 篇からなる．このうち，脈法，脈状の記載が見られるのは診切指南篇三で，13 の項目（左右気血弁例，浮沈気血弁例，沈弦筋骨弁例（附腫痛湿火之弁例），滑濇燥潤弁例，弦滑弁因，色脈相生順逆弁例，形気色脈弁察，噎膈気血不足診察，人迎気口神門之所在，一腎両根解説，四脈為祖，五脱診察，面上五行）からなる．

項目全てに引用書が示されており，『医学正伝』（4 回），『丹渓心法』（3 回），『此事難知』（2 回），『玉機微義』（1 回），『外科精義』（1 回），『医学小学』（1 回），『医林正宗』（1 回）『湯液本草』（1 回），『医家大法』（1 回）などの書名が確認される．

道三の脈法資料のうち，最も関連が深いのは『診切枢要』で，13 項のうち，浮沈気血弁例を除く 12 項が『診切枢要』に同類文として見られる．また，『診脈口伝集』『切紙』『医家要語集』察脈要語及び『老師雑話記』にも同類文がある．

以下，本書の内容を要約する．

（1）「左右気血弁例」「浮沈気血弁例」「噎膈気血不足診察」は，左右，浮沈と気血を同類（左，脈沈＝血虚，右，脈浮＝気虚）とする．このうち，左右と気血を同類とする論は，『診切枢要』『医家要語集』『老師雑話記』に見られる．

（2）「沈弦筋骨弁例（附腫痛湿火之弁例）」「滑濇燥潤弁例」「弦滑弁因」では，沈脈，弦脈，滑脈，濇脈の脈證，及び痛，腫の病因を述べる（沈脈＝骨＝腎，弦脈＝筋＝肝．滑脈＝燥湿，濇数＝瘀血，弦脈＝食，滑脈＝痰．痛＝火，腫＝湿）．『診脈口伝集』『診切枢要』『医家要語集』に同文が記載される．

（3）「色脈相生順逆弁例」「形気色脈弁察」では，脈と色，形気，症状との相関関係（逆順）を述べる．『診切枢要』『診脈口伝集』『医家要語集』に同文が見られる．

（4）「人迎気口神門之所在」では，人迎と気口の位置を述べる．『医学正伝』或問第 45 条の引用〈人迎＝右手関前寸後，気口＝右手関前寸後〉である．人迎と気口の部位と診察については，『診切枢要』『診脈口伝集』『脈訳簡略』にも見られるが，これら 3 書では『丹渓脈訣』を引用する．

（5）「一腎両根解説」では，腎には左腎，右腎の 2 つがあり，左腎（陰水）は肝，心，右腎（陽火）は脾，肺を生ずるとする．『医学正伝』或問第 14 条の引用で，『診切枢要』に同様の記載がある．

（6）「四脈為祖」では，浮沈遅数の四脈による診察（四脈の有力，無力）について述べる．四脈は，道三の脈法における中心的な方法であり，本書のほか，『診切枢要』『医家要語集』『診脈口伝集』『脈訳簡略』『切紙』に同様の記載があるが，四脈を祖とするのは本書の「四脈為祖」が初めである

（7）「五脱診察」は，五脱（津脱，液脱，気脱，血脱，精脱）の診察について述べる．『医家大法』の引用とするが，『霊枢』決気篇を源泉とする．

（8）「面上五行」は，面部の五色，及び脈状（浮沈長短滑濇），部位（寸関尺，左右）の陰陽について述べる．『診切枢要』，『診脈口伝集』『医家要語集』に同様の記載がある．